

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	憲法 (2) 単位		担当者氏名		細貝 巖 (弁護士)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	日本国憲法にはどのような人権規定があるのか、統治機構が採用されているのか理解することができる。国家の統治機構・三大基本原理（「国民主権」・「基本的人権の尊重」・「平和主義」）の構成が理解でき、日本国憲法が我々の生活にどうかかわっているかを理解することができる。				
授業概要	日本国憲法の全体像を理解できるようにする。日本国憲法にはどのような規定があるか確認し、様々な解釈に基づいた解説をする。				
授 業 計 画 表	1	憲法と立憲主義・日本憲法史			
	2	日本国憲法の構成と基本原理			
	3	基本的人権の保障・包括的基本権と法の下での平等			
	4	精神的自由権			
	5	身体的自由権			
	6	経済的自由権			
	7	社会権			
	8	参政権と国務請求権			
	9	統治機構の基本原則			
	10	国会と立法権			
	11	内閣と行政権			
	12	裁判所と司法権			
	13	財政			
	14	地方自治			
	15	憲法改正			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「憲法」（豊岡短期大学） 「ポケット六法」「コンサイス六法」「デイリー六法」などの「六法」				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「人間関係」 (1) 単位		担当者氏名		三沢妃佐江 (元幼稚園教諭)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>領域「人間関係」のねらいや内容、内容の取扱いについて説明できる。 人間関係の発達や自立心・道徳性の発達などこどもを深く理解し、保育実践に応用できる。養育者・保育者・地域の人々など、こどもを取り巻く人的環境における関係性について考察することができる。</p>				
授業概要	<p>領域「人間関係」のねらいや内容、内容の理解を深めるとともに、様々なかかわりをととした人間関係の発達について実践のエピソードを取り上げ解説する。保育者としてどのようにこどもの人とのかかわりを育てていくのか、保育者としてこどもとどのような関係性を気付いていくのか、様々な関係性について考察する。</p>				
授 業 計 画 表	1	領域「人間関係」のねらいと内容およびその取扱い			
	2	保育者としての役割			
	3	保育者としての環境づくりと評価			
	4	保育構想と指導案（模擬保育）			
	5	対人意識、自己概念の発達			
	6	自己理解と他者理解を支える保育者の工夫			
	7	個と集団の育ちの姿			
	8	こどもの心の拠り所である保育者の工夫			
	9	人とのかかわりと子どもの心の揺れ動きを支える保育者の工夫			
	10	集団におけるこども同士の芽生え、調和を支える保育者の工夫			
	11	こどもの自己発揮・自己抑制を支える保育者の工夫			
	12	こどもの大切な育ちを捉える保育者の視点			
	13	こども同士を結びつける保育者の遊びの役割と保育計画			
	14	情報機器を活かした保育計画、指導案			
	15	地域との関わりを導く保育計画、小学校との交流を導く保育計画			
成績評価基準	<p>受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：演習に対するワークシートにより評価する 単位認定試験：出題についての確に解答されていることを基準とする 3分の2以上の出席</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「言葉」		担当者氏名		宮崎寛子 (保育士)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	乳幼児の言葉の獲得について理解し、年齢別のコミュニケーションを図ることができるようになる。乳幼児期の言葉の重要性を文字体験活動も加え役割を認識する。こどもの心情・思考や行動などを育む保育者の言動のあり方が認識できるようになる。				
授業概要	乳幼児期の言葉の発達やそのしくみ、こどもへの先達となる言葉のあり方、姿勢などについて学習を深めるとともに、文字への興味、言葉の持つ楽しさや美しさ、言語教材についても総合の意見交換や実践的な取り組みを行い、乳幼児期に言葉を獲得することの意義を探究する。				
授業 計 画 表	1	言葉とは何か 生活と言葉			
	2	領域「言葉」の位置付けと他領域との関わり			
	3	領域「言葉」指導上の留意点と評価			
	4	0歳～5歳における言葉の発達、6歳の就学に向けた取り組み			
	5	言葉遊びに関する情報機器及び教材の活用法			
	6	言葉遊びによる指導案作成及び模擬保育			
	7	言葉から文字へ、文字による環境			
	8	文字体験としてのカルタ・双六・絵カード等の製作、模擬保育体験			
	9	言葉の遅れや障がいをもつ乳幼児の捉え方と支援			
	10	外国のこどもとの対応			
	11	言語教材としての絵本の意義			
	12	絵本とデジタル教材と保育現場の実際および言語教材を用いた指導案の作成			
	13	絵本、お話等の指導法と情報機器の利用について			
	14	絵本、お話等の実践による指導案作成及び模擬保育			
	15	言葉の年間授業計画と幼稚園、保育園、こども園と小学校との連携			
成績評価基準	受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする 課題：演習に対するワークシートにより評価する 単位認定試験：出題についての確に解答されていることを基準とする 3分の2以上の出席				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館） 保育内容 実践と研修シリーズ「ことばからの育ち」／村石昭三／フレーベル館				

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「リズム表現」 (1) 単位		担当者氏名		外山 あゆみ (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育内容を理解し、表現遊びを展開するために必要な知識や技術を表現領域から見出し、保育指導法を習得していくことを目的とする。また、こどもの表現の指導援助者として、保育内で扱う教材について必要な知識を併せて習得する。表現に関する知識や保育技術の習得と、実践を通じた感性や人間力の育成を目指す。				
授業概要	領域「表現」の内容を主軸として他領域での知識や技能と関連させながら、こどもにとっての表現について、その意義、効果的な指導法、使用教材の知識などについての理論と実践方法を学習する。さらに、小学校以降の教科とのつながりを見通した授業構想を指導案作成と共に実践できるよう指導援助者としてのあるべき姿を追求していく。				
授業 計 画 表	1	領域「表現」についての基本的な考え方			
	2	領域「表現」の指導において求められる捉え方 小学校教科とのつながり			
	3	基礎リズムパターンの理解と指導上の留意点			
	4	幼児期の身体的・精神的発達をふまえた指導法の理解			
	5	幼児の心情・認識・思考及び動き等をふまえた基本動作の実践			
	6	観察や模倣を通して幼児のイメージを豊かにする指導法の実践			
	7	タブレット等の情報機器を用いた多様な振り付けの実践と理解			
	8	幼児の表現したい気持ちを育む指導法の実践			
	9	楽器の取り扱いとオリジナル楽器の製作と活用			
	10	指導案製作の基礎 オリジナル楽器を使った指導案の作成			
	11	オノマトペ（擬態語・擬音語・擬声語）の表現方法について			
	12	領域「表現」と小学校教科等のつながり			
	13	表現する力を育てるための保育者の役割と援助			
	14	絵本のストーリーを入れた模擬保育の実践と振り返り			
	15	リズム遊びを用いた模擬保育の実践と振り返り			
成績評価基準	<p>受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする</p> <p>課題：演習に対するワークシートにより評価する</p> <p>単位認定試験：出題についての確に解答されていることを基準とする</p> <p>3分の2以上の出席</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p> <p>「1～5歳のかたんりトミック」神原雅之著（ナツメ社）</p>				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅰ（ピアノ実技）		担当者氏名		近藤 ルミ子 (保育士)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	バイエル62番から102番までを読譜し、演奏できる技術の習得 小学校歌唱曲や子どもの歌の弾き歌いがでできる技術の習得				
授業概要	ピアノを活用した教科内容や保育内容に対応できるように、音階や音符の知識を学びピアノや鍵盤ハーモニカ等の指導ができるようになるために基礎的なピアノ穂湧現の技術を身に付ける				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション 課題曲の提示と読譜の基本			
	2	指使いの基本			
	3	初歩的な右手の曲の演奏			
	4	左手の運指の基本			
	5	初歩的な両手を使った曲の演奏			
	6	各自の習得状況に応じた課題曲の選曲			
	7	大譜表の読譜と指番号に基づいた指の動き			
	8	バイエル62番の練習			
	9	ソルフェージュ25番の練習			
	10	バイエル100番の練習			
	11	バイエル102番の練習			
	12	ソルフェージュ54番の練習			
	13	ソルフェージュ55番の練習			
	14	せんせいとおともだちの弾き歌い練習			
	15	課題曲の発表			
成績評価基準	実技試験により、60点以上を合格とし単位を認定する。				
	3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	豊岡短期大学「こどもと音楽表現」 「こどものうた200」チャイルド本社				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育の計画と評価 (2) 単位		担当者氏名		高橋玲子 (保育士)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>保育内容の充実と質の向上に資する保育の計画及び評価について理解する。 全体的な計画と指導計画の作成についてその意義と方法を理解する。 子どもの理解に基づく計画、実践、省察・評価、改善の過程についてその全体構造を捉え、理解する。</p>				
授業概要	<p>子どもを育てるうえで、大切なこと（目標）、どのような方法・手だて（方針）、 どのような内容で、どの時期に、どんな環境で、等々を学ぶ。 幼児教育・保育における教育課程・全体的な計画の意義と役割を明らかにする。</p>				
授 業 計 画 表	1	教育・保育における計画と評価の意義			
	2	カリキュラムの基礎理論			
	3	計画、実践、記録、省察・評価、改善の過程の循環及び子ども理解による保育の質の向上			
	4	幼稚園・保育所・認定こども園における教育・保育計画			
	5	教育課程および全体的な計画等の編成の実際			
	6	教育・保育の指導計画の作成にあたって			
	7	指導計画作成上の留意事項			
	8	長期的な指導計画の編成			
	9	短期的な指導計画の編成			
	10	指導計画を立てる時の基本の考えと立案			
	11	指導計画をもとにした模擬保育の展開			
	12	教育・保育の記録と省察			
	13	生活と発達連続性をふまえた要録			
	14	教育・保育実践の評価			
	15	教育・保育の改善			
成績評価基準	<p>レポート課題における専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、 科目試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	<p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	保育内容総論 (1) 単位		担当者氏名		宮崎寛子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	保育所や幼稚園、認定こども園における「保育」の全体構造について理解し、各領域の保育内容を総合的にとらえる視点から、乳幼児期の発達過程、園での生活や遊び、保育計画、具体的な援助等について保育の流れを概観し、保育実践と結びつけながら学ぶことを目的とする。				
授業概要	保育内容総論では、領域別の授業で学んだ内容を実際の子どもの姿や保育の場面に結び付けて総合的に理解する。保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく保育内容の基本的理解が深まるよう具体的な事例をもとに実践を通して学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	保育の全体的構造① 育みたい資質・能力の三つの柱と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿			
	2	保育の全体的構造② 領域の考え方と乳児保育の領域			
	3	保育内容の歴史的変遷① 変遷にみる特徴			
	4	保育内容の歴史的変遷② 変遷にみる課題			
	5	養護と教育の一体的展開 養護的なかかわりと教育的なかかわり			
	6	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容① 園行事の意味と在り方			
	7	乳幼児期にふさわしい生活と保育内容② 保幼小の円滑な連携			
	8	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開① 環境を通して行う保育			
	9	生きる力の基礎をはぐくむ保育内容の展開② 遊びによる総合的な保育			
	10	全体的な計画の作成と指導計画の作成① 全体的な計画の作成			
	11	全体的な計画の作成と指導計画の作成② 指導計画の作成手順と配慮			
	12	保育の評価と保育の記録① 幼児理解に基づく評価			
	13	保育の評価と保育の記録② 観察記録を書く意味と幼児理解			
	14	保育内容の現代的課題について① 子育て支援			
	15	保育内容の現代的課題について② 多文化共生保育			
成績評価基準	<p>受講態度：授業内での関心・意欲・思考力・判断力を基準とする</p> <p>課題：グループワークでの発表内容を基準とする</p> <p>単位認定試験：授業の内容を踏まえ、本質に根差した論文を書くことができるかどうかを基準とする</p> <p>3分の2以上の出席</p>				
使用テキスト等	<p>「保育内容総論」（豊岡短期大学）</p> <p>「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館）</p> <p>「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）</p>				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	乳幼児保育Ⅰ		担当者氏名		高橋 玲子 (保育士)
	(2) 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 乳幼児保育の意義・目的と歴史の変遷及び役割等について理解する。 2. 保育所、乳幼児院等様々な保育の場における乳幼児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達をふまえた保育の内容と運営体制を理解する。 4. 職員間の連携・協働及び保護者や地域関係機関との連携を理解する。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学びその意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授 業 計 画 表	1	乳幼児保育の意義・目的	16	3歳未満児の遊び	
	2	乳幼児保育の歴史の変遷	17	3歳未満児の遊びと環境	
	3	乳幼児保育の役割と機能	18	3歳以上児保育への移行期	
	4	乳幼児保育における養護	19	3歳未満児の発育	
	5	乳幼児保育における教育	20	保育士による援助	
	6	家庭支援の社会的状況	21	発育・発達をふまえた配慮	
	7	家庭支援の課題	22	乳幼児保育における計画	
	8	保育所における乳幼児保育	23	乳幼児保育における記録	
	9	児童福祉施設における乳幼児保育	24	乳幼児保育における評価	
	10	家庭的保育等における乳幼児保育	25	乳幼児保育における連携・協働	
	11	3歳未満児	26	職員間の連携・協働	
	12	3歳未満児の家庭支援	27	保護者との連携・協働	
	13	3歳未満児の子育て支援の場	28	自治体との連携・協働	
	14	3歳未満児の生活	29	地域関係機関等との連携・協働	
	15	3歳未満児の生活と環境	30	これからの乳幼児保育	
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果、60点以上を合格とし、単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「乳幼児保育」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	人間関係論 (1) 単位		担当者氏名		三沢 妃佐江 (元幼稚園教諭)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	15 時間
授業目標	現代のこどもの人間関係の育ちに影響を与えている社会的要因について理解し、幼児（保育）教育で保証すべき教育内容に関する知識を身に付ける。こどもを取り巻く他者との関係、集団との関係から、こどもの人間関係を考察し、乳幼児が人との関わりを通じて育つことを理解する。				
授業概要	領域「人間関係」の考え方について理解を深め、人間関係の成立と展開に関する発達心理学的基盤について理解する。保育実践において、人間関係を育む際の保育者の役割について理解し、こどもの発達に応じた保育のあり方を考える。				
授 業 計 画 表	1	領域「人間関係」			
	2	人間関係のねらいと内容			
	3	人間関係と取り巻く社会環境① 少子化			
	4	人間関係と取り巻く社会環境② 家族の変化			
	5	人間関係と取り巻く社会環境③ 身近な環境の変容			
	6	人間関係と取り巻く社会環境④ メディアの変化			
	7	規範意識と道徳性の芽生え			
	8	ルール、決まり事の意味と意義			
	9	自立心、協同性の芽生え			
	10	自己発揮と自己抑制の芽生え			
	11	遊びの中で育つ乳児の人間関係			
	12	遊びの中で育つ幼児の人間関係			
	13	人間関係とこどもの生活			
	14	家庭や地域とのかかわりとこどもの発達			
	15	今日的な人間関係の課題			
成績評価基準	レポート課題においての専門知識の理解、獲得及び思考表現にあり判定し評価、科目試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「人間関係論」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育内容（人間関係Ⅱ）		担当者氏名		三沢 妃佐江 (元幼稚園教諭)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	教育の場で一人ひとりが大切にされ、お互いが豊かなかかわり合いがもてる集団を形成するにはどのような課題があるのかを考察し、幅広い視点を得る。				
授業概要	領域「人間関係」におけるねらいと内容について理解を深めるとともに、生活場面における幼児のさまざまな「人とのかかわり」とその育ちについて学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	幼児教育の基本			
	2	領域「人間関係」を理解する			
	3	領域「人間関係」と他領域との関係			
	4	子どもと保育者の信頼関係			
	5	遊びの中の人とのかかわり			
	6	実技・グループワーク			
	7	指導案作成			
	8	自我の発達			
	9	自己主張・自己抑制			
	10	個と集団の育ち			
	11	協働性を育む			
	12	規範意識と道徳性の芽生え			
	13	人とのかかわりを育む			
	14	幼児教育の今日的課題			
	15	まとめ			
成績評価基準	受講態度および単位認定試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。				
	3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習Ⅰ		担当者氏名		宮崎 寛子 (保育士)
	(4) 単位		学習形態		実習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	後期	授業時間数	180 時間
授業目標	保育実習、施設実習を通し保育所・施設の役割を学び、こどもや入所者と接するなかで、保育者の職務と倫理について理解する。				
授業概要	保育実習Ⅰ（保育所）90時間、保育実習Ⅰ（施設）90時間の実習を行う。保育所では生活を体験する中で、保育所の機能、保育士の役割、保育の基本について学ぶ。施設では生活や療育を実際に体験する中で、施設の機能や生活の流れを知り、子ども・利用者を理解し援助の仕方、施設保育士の職務について理解する。				
授 業 計 画 表	1				
	2				
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習園により評価 90時間以上の実習を行い、実習日誌を期日までに提出していることが評価の前提となる。 資格取得に必要な所定日数（時数）を満たした者。				
使用テキスト等	豊岡短期大学実習簿				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習指導 (2) 単位		担当者氏名		宮崎 寛子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 1年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 保育実習の意義・目的を理解する。 2. 実習の流れと実習上の留意点を理解する。 3. 実習課題の設定の仕方・保育指導案の立て方、実習簿の書き方を学ぶ 4. 事後指導では、実習の振り返りと自己評価を行い、新たな課題や学習目標を設定する。				
授業概要	実習の意義を理解し、学校での今までの学びを使いながら、どのようにこどもを支援していくか演習を通して考える。実習の流れと実習上の留意点をテキスト中心に学び、自分の実習課題を立てる。保育指導案の書き方、実習簿の書き方を学ぶ。事後指導では、実習を振り返り自己評価を行い新たな課題や学習目標を設定する。				
授 業 計 画 表	1	実習の意義・目的			
	2	保育所とは何か			
	3	新保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領			
	4	保育所を構成する職員と職種間の連携			
	5	社会人としてのマナー			
	6	乳幼児の年齢別発達の特徴			
	7	緊急時の対応 事故を防ぐ留意点			
	8	観察実習、参加実習、責任実習			
	9	実習簿の書き方と保育指導案の立て方			
	10	絵本の読み聞かせ、手遊び、ピアノ等保育技術の利用			
	11	児童福祉施設の種別及び特徴、多職種及び他機関との連携			
	12	社会的養護の原理・原則及び支援の留意点			
	13	プライバシーの保護と守秘義務など保育者の倫理			
	14	実習の目標や実習課題の設定			
	15	実習の総括と新たな課題・自己目標			
成績評価基準	授業内での関心・意欲・思考力・判断力・提出物を総合的に評価する 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「保育実習指導」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの保健 (2) 単位		担当者氏名		渡邊 壽子 (看護師)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解する。 2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解する。 3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する。 4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する。				
授業概要	子どもの成長発達の特徴を理解し、その過程でおこる心身の疾病を理解する。保育者として子どもの病気を早期発見するための観察力を養い、具体的な対応を学び、実践力を高める。事故や感染等の安全管理について、予防対策の取り組みについても学ぶ。さらに、保育における安全管理について理解を深め、関係機関との連携についても学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	子どもの心身の健康と保健の意義	16	子どもの生活習慣と病気	
	2	こどもの健康と生活	17	日常よくみる症状の対応	
	3	生命の保持と情緒の安定	18	感染症の症状と対応	
	4	健康の概念と健康指標	19	アレルギーのある子ども	
	5	現代社会における子どもの健康	20	体調不良の子どもの対応	
	6	地域における保健活動	21	健康状態の観察	
	7	児童虐待の理解と防止	22	心身の不調等の早期発見	
	8	こどもの発達と発育の特徴	23	発育・発達の把握と健康診断	
	9	障がいのある子どもと家庭支援	24	気になる子どもへの対応	
	10	生理機能の発達と保健	25	保護者との情報共有	
	11	予防接種の種類・効果	26	疾病の予防と適切な対応	
	12	保育環境の衛生管理	27	救急処置・救急蘇生法の理解	
	13	安全対策と危機管理	28	災害時の危機管理	
	14	家庭・専門機関・地域との連携	29	病児後保育の対応	
	15	保育所保育指針等における小児保健	30	家族と連携施設との協働	
成績評価基準	レポート課題における専門知識の理解、科目試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「こどもの保健」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「環境」		担当者氏名		三沢 妃佐江 (元幼稚園教諭)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	15 時間
授業目標	乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考えることによりより良い保育を実践する重要性を認識する必要がある。また保育者が保育環境の構成をどうデザインするかということについても学ぶ。環境を通して行う保育の意味について考える。				
授業概要	こどもは様々な環境の中で生活をしている。それは家庭・地域社会・保育所・幼稚園・認定こども園であり、また「物的環境」「人的環境」「自然環境」「社会環境」の中で生きている。様々な生活経験を通して、人格形成をはじめ思考力・創造力・想像力等を学んでいく。環境とは何かを理解しそこにどう関わるかを中心に保育現場における具体的事例をあげて学習していく。				
授 業 計 画 表	1	環境の定義			
	2	環境を通して行う保育の意味			
	3	領域「環境」のねらい・内容			
	4	領域「環境」の内容の取扱い・指導計画			
	5	人的環境・物的環境			
	6	自然環境、社会・文化環境			
	7	保育における環境の重要性			
	8	好奇心・探求心・思考力の芽生え			
	9	保育環境のデザイン 室内環境			
	10	保育環境のデザイン 室外環境			
	11	保育者の役割			
	12	さまざまな環境との出会い 標識・文字			
	13	さまざまな環境との出会い 数量と図形・ものの性質			
	14	こどもの遊びの世界 「3間」の意味			
	15	こどもと環境における現状と課題 小学校との連携			
成績評価基準	受講態度、グループワークの発表内容、単位終了試験から総合的に判断し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

授業概要（シラバス）

科目名	乳幼児保育Ⅱ (1) 単位		担当者氏名		高橋 玲子 (保育士)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	乳幼児保育の場について家庭及び家庭的保育などの現状と関連性を理解できる。 乳幼児保育の現状と役割、乳幼児の援助について具体的に理解できる。 乳幼児保育の果たす役割について具体的な援助方法や保護者支援を理解できる。				
授業概要	乳幼児保育の歩みと現状、乳幼児の発達上の特徴など、基本的な知識について学び、その意義や必要性を理解できるようにする。人としての基礎を培う大切な乳幼児期に関わる保育者の役割を理解し、適切な保育の計画や方法、保護者への支援の習得を目指す。				
授業 計 画 表	1	乳幼児保育とは			
	2	乳幼児保育の歴史、背景と制度			
	3	現代社会と乳児、乳幼児保育の場			
	4	乳幼児の発達と保育内容（1） 6か月未満児			
	5	乳幼児の発達と保育内容（2） 6か月から1歳3か月未満児			
	6	乳幼児の発達と保育内容（3） 1歳3か月から2歳児			
	7	乳幼児保育における保護者との関係			
	8	乳幼児保育の現状			
	9	乳幼児の生活と遊び、環境づくり			
	10	乳幼児の理解、援助の実際			
	11	集団保育における安全と健康			
	12	乳幼児保育の発達と保育内容			
	13	保育課程に基づく指導計画			
	14	乳幼児保育における連携と地域子育て支援			
	15	乳幼児保育の課題			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価、 科目試験の結果、演習への取り組みから判定し、60点以上を合格とし単位を 認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「乳幼児保育」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	子育て支援 (1) 単位		担当者氏名		三沢 妃佐江 (元幼稚園教諭)
			学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育相談支援の知識と技術を演習で身に付けるとともに、保育相談支援の実際について事例を通して理解できるようになる。				
授業概要	保育相談支援は保育の知識および技術を使って子どもの最善の利益を守るために行われる保護者支援である。保護者や子どものおかれている現状を把握し、保護者支援のあり方を演習を通して具体的に学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	子育て支援について			
	2	保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領より子育て支援を学ぶ			
	3	こどもの最善の利益と福祉			
	4	保育相談支援の構造と展開			
	5	保育相談支援の内容			
	6	保育相談支援の方法、技術			
	7	保護者支援の計画			
	8	保護者支援の記録、評価、カンファレンス			
	9	保育実践における保護者支援についての演習			
	10	保育相談支援の直接的な手段			
	11	保育相談支援の間接的な手段			
	12	児童福祉施設の保育相談支援を事例を通して学ぶ			
	13	園児の保護者や地域の保護者の保育相談支援			
	14	特別な配慮を要する家庭への支援			
	15	保育所以外の子童福祉施設の保育相談支援			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価し、科目試験の結果、演習への取り組みから判定し60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「相談援助 保育相談支援」笠師千恵、小坂明子（中山書店） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅰ（ピアノ実技）		担当者氏名		近藤 ルミ子 （保育士）
	（ 1 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育内容に沿ってこどもの音楽表現活動を援助し、こどもの成長過程における豊かな人間形成を育成することをテーマとする。 保育内容を理解し、具体的かつ豊かな音楽表現活動ができる技術と知識を修得する。				
授業概要	ピアノ奏法を学び、弾き歌いや伴奏法への応用力を身に付ける。また、音楽のさまざまな要素を能力として定着させるための訓練としてソルフェージュも行う。実技修得は、各自の習得度に応じた個別指導も行う。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション	16	課題曲の学習2① グループレッスン	
	2	ピアノ実技、ソルフェージュのガイダンス	17	課題曲の学習2② 個人レッスン	
	3	第1教程で学ぶピアノ奏法	18	発表会形式によるプレテスト2① ピアノ奏法	
	4	個々の習得度を考慮した練習曲の選択	19	発表会形式によるプレテスト2② ソルフェージュ	
	5	楽曲構成に注目した学習① グループレッスン	20	第3教程で学ぶ楽曲 表現の幅を広げる	
	6	楽曲構成に注目した学習② 個人レッスン	21	課題曲の学習3① グループレッスン	
	7	課題曲の学習1① グループレッスン	22	課題曲の学習3② グループレッスン	
	8	課題曲の学習1② 個人レッスン	23	課題曲の技術的な問題点の練習法	
	9	発表会形式によるプレテスト1① ピアノ奏法	24	発表会形式によるプレテスト3① ピアノ奏法	
	10	発表会形式によるプレテスト1① ソルフェージュ	25	発表会形式によるプレテスト3① ソルフェージュ	
	11	第2教程で学ぶピアノ奏法	26	課題曲の振り返りと技術的な問題点の練習法	
	12	指の交差、ポジション移動の習得	27	発表会テスト ピアノ①	
	13	楽曲構成に注目した学習① グループレッスン	28	発表会テスト ソルフェージュ	
	14	楽曲構成に注目した学習② 個人レッスン	29	発表会テスト ピアノ②	
	15	まとめ 課題曲の技術的な問題点の練習法	30	発表会テスト ピアノ③	
成績評価基準	受講までの自学自習態度、段階ごとの演奏技術習得度、演奏発表により、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「こどもと音楽表現」（豊岡短期大学） 「こどものうた200」（チャイルド本社） 「続こどものうた200」（チャイルド本社）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅲ（人間関係）		担当者氏名		高橋 玲子 （保育士）
	（ 2 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>子ども側に立った理解と保育者として何ができるかを求められる保育士像から模索し、保育士の専門性について理解する。</p> <p>生涯発達の観点を持ちながら、人間関係を中心とした子どもの発達を理解する。</p>				
授業概要	<p>グループワークを通し、保育の実践で利用可能な技術と知識・能力を磨き、子どもの発達を捉えながら、現場での実践を発表を行う。</p>				
授業 計 画 表	1	求められる保育士像～保育士の専門性と人材確保に向けた取り組み～ 講義			
	2	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	3	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	4	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	5	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	6	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	7	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	8	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	9	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	10	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	11	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	12	子どもの発達段階・子どもを取り巻く環境を理解しグループワークに取り組む			
	13	実践発表を行う			
	14	実践発表を行う			
	15	まとめ			
成績評価基準	<p>発表60%、取り組む態度・発表への取り組む姿勢 40%、全体を100%として60%を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	なし				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅳ（卒業研究）		担当者氏名		高橋 玲子 （保育士）
	（ 1 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	2年間の学内外における学びを基に、各自が関心のあるテーマに取り組み、学習の成果をまとめ、レポートの作成と発表を行う。				
授業概要	各自が関心のあるテーマを基に、課題設定、研究、考察をし、レポートとしてまとめる。また、皆の前で研究の成果をまとめ、レジュメ、ポスター、PowerPoint等のツールを使い発表をする。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション・課題の立て方と研究の進め方			
	2	課題設定のための学習			
	3	課題設定のための学習			
	4	研究計画			
	5	各自研究に取り組む			
	6	各自研究に取り組む			
	7	各自研究に取り組む			
	8	各自研究に取り組む			
	9	各自研究に取り組む			
	10	レポート作成			
	11	レポート作成			
	12	発表準備			
	13	発表準備			
	14	研究発表会			
	15	研究発表会・レポート提出			
成績評価基準	レポート60% 取り組む態度・発表への取り組む姿勢と成果 40% 全体を100%として60%を合格とし、単位を認定する。				
	3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	なし				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	こどもの指導法「言語表現」		担当者氏名		宮崎寛子 (保育士)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	こどもたちの生活に組み入れられている文化についてその歴史、内容などを理解し、豊かに育ちゆくこどものために好ましい文化のあり方を理解する。保育現場で使用される言語に関わる文化財を取り上げ、日々の生活の中でこどもの言語習得経験とどのように関係するのかを理解することを目的とする。				
授業概要	理論を踏まえた上で、保育の場において役に立つ技術を身に付け、子どもたちが文化によって夢や希望を与えられるだけでなく、自らが文化を創り出す活動や表現ができるようにすることも視野にいれ学習を行う。				
授 業 計 画 表	1	こどもと文化のかかわり			
	2	意義、歴史、内容			
	3	成長と遊び、玩具			
	4	伝統文化1 折り紙の意義			
	5	伝統文化2 折り紙の基礎			
	6	絵本1 こどもの絵本			
	7	絵本2 絵本の種類			
	8	絵本3 絵本の選び方			
	9	絵本4 読み聞かせの方法と留意点			
	10	紙芝居の歴史と特徴			
	11	紙芝居の演じ方と留意点			
	12	おはなしの意義 選び方、歴史			
	13	語り聞かせの方法と留意点			
	14	お話 各国の作品、特徴			
	15	児童文化財の分析・考察			
成績評価基準	レポート課題において専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定し評価し、科目試験の結果により判定し60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「こどもと言語表現」(豊岡短期大学) 「幼稚園教育要領解説」(フレーベル館)、「保育所保育指針」(フレーベル館) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」(フレーベル館)				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	環境論 (1) 単位		担当者氏名		三沢 妃佐江 (元幼稚園教諭)
			学習形態		講義
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	15 時間
授業目標	乳幼児期のこどもの発達と環境の関係性を考える。環境を通して行う保育の意味を知る。保育環境のデザインを実践できる。様々な環境との出会いを理解する。				
授業概要	こどもを取り巻く環境は様々であり、その中でこどもは生活をしている。具体的な環境例を示しながら、それらと子どもの発達の関係性を考える。また、環境を通して行う保育の意味をしっかりと学習し、保育者自身が保育環境をデザインする力を身に付ける必要がある。そのためにさまざまな環境との出会いに気づき、それについて深く学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	環境の定義			
	2	環境を通して行う保育の意味			
	3	領域「環境」の位置づけ			
	4	ねらい、内容、指導計画			
	5	人的環境・物的環境			
	6	自然環境、社会・文化環境			
	7	幼児の身近な環境との関わり			
	8	室内・室外			
	9	文字・標識・数量・図形			
	10	季節の行事、地域の行事			
	11	地域、施設との関わり			
	12	住んでいる町を知ろう			
	13	保育者としての専門性の向上			
	14	保育マインドの向上			
	15	保育環境をデザインする			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果により判定し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	豊岡短期大学『環境論』 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育内容（環境Ⅱ）		担当者氏名		三沢 妃佐江 (元幼稚園教諭)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	「ひと・もの・こと」をはじめとした、子どもを取り巻く環境について理解を深めていくとともに、子どもの身近な環境について考え、環境を通して行う保育について学ぶ。				
授業概要	幼稚園教育要領や保育所保育指針、幼保連携型認定子ども園教育・保育要領に示されている内容の概要から乳幼児期の教育・保育における基礎的な知識と技術の理解、習得を目指す。				
授 業 計 画 表	1	保育・幼児教育の基本と領域			
	2	領域「環境」とは			
	3	環境を通して行う保育			
	4	環境を通して行う保育			
	5	子どもの身近な環境の考察			
	6	物的環境と関わって遊ぶ			
	7	自然を取り入れて遊ぶ			
	8	自然の特性を活かす			
	9	生き物とのかかわりを通した子どもの学び			
	10	文字や標識、数や図形への関心			
	11	生活の中で情報に興味を持つ			
	12	情報への興味関心から遊びへのつながり			
	13	海外における保育環境			
	14	現代社会における課題と子どもを取り巻く環境			
	15	保育者の果たすべき役割			
成績評価基準	授業態度、課題、単位認定試験の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定子ども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅱ（表現）		担当者氏名		近藤 ルミ子 （保育士）
	（ 2 ）単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	・子どもに伝わるような配慮、工夫をしながら表現できるようになる。				
授業概要	・視聴覚教材の演習（絵本・紙芝居・軍手シアター・ペープサート パネルシアター・エプロンシアター）				
授 業 計 画 表	1	演じる・表現について	16	「パネルシアター」③制作	
	2	「絵本」の読み聞かせについて①実践	17	「パネルシアター」④実践	
	3	「絵本」の読み聞かせについて②発表	18	「パネルシアター」⑤発表	
	4	「紙芝居」の読み聞かせについて①実践	19	「エプロンシアター」①立案	
	5	「紙芝居」の読み聞かせについて②発表	20	「エプロンシアター」②制作	
	6	「ペープサート」①立案	21	「エプロンシアター」③制作	
	7	「ペープサート」②制作	22	「エプロンシアター」④実践	
	8	「ペープサート」③発表	23	「エプロンシアター」⑤発表	
	9	「軍手シアター」①立案	24	「自己紹介スケッチブック②」①立案	
	10	「軍手シアター」②制作	25	「自己紹介スケッチブック②」②制作	
	11	「軍手シアター」③制作	26	「自己紹介スケッチブック②」③制作	
	12	「軍手シアター」④実践	27	「自己紹介スケッチブック②」④実践	
	13	「軍手シアター」⑤発表	28	「自己紹介スケッチブック②」⑤発表	
	14	「パネルシアター」①立案	29	年間で制作した作品について発表	
	15	「パネルシアター」②制作	30	年間で制作した作品について発表・まとめ	
成績評価基準	可愛への取り組み30%、発表の姿勢など30%、授業態度等40%、全体を100%として60%を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	なし				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習 II		担当者氏名		宮崎 寛子 (保育士)
	(2) 単位		学習形態		実習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	後期	授業時間数	90 時間
授業目標	実習生の姿勢・態度としては、向上心を持って実践的学びを積む 保育内容に沿う教材準備・環境構成ができ、生活・遊びを促す援助をする 実習日誌には保育者の意図を感じ取り学びや気づきや子どもとのかかわりを詳細に記入する 指導案を書く意味が分かり実践を行う。全日実習指導案の立案と実践 手続きを計画的に進め、提出物は期日を守り提出する				
授業概要	保育実習Ⅰ（保育所）の学びを踏まえ、子どもとのかかわりを深めながら観察し 保育理念や保育計画を把握し、保育士の職務をより深く理解する。また修得した 知識と技術をきそとして、総合的に実践する応用力を身につける。				
授 業 計 画 表	1	実習期間：2019年10月 15日（火）～ 29日（火） 2週間 90時間			
	2	実習の内容：参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い省察する。			
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	実習園による評価（実習態度・保育所理解・幼児理解など）及び実習日誌の 評価をして行う。 資格取得に必要な所定日数（時数）を満たした者。				
使用テキスト等	なし				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育実習指導Ⅱ		担当者氏名		宮崎 寛子 (保育士)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	保育実習Ⅰで学習した保育所における保育の学びをさらに深め、発達援助の技術、生活援助の技術、関係性構築の技術、遊びを展開する技術等について専門性と実践力を磨く。実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題を明確にする。				
授業概要	保育現場での保育実践を、自分の物として身に付けられることをねらいとする。他授業で学んだ知識および保育実習Ⅰで学んだ内容を振り返り、実習で活かせるように準備する。				
授 業 計 画 表	1	保育実習Ⅰの振り返り			
	2	実践的な自己課題の決定			
	3	保育知識のおさらいと実習で身に付けること			
	4	子どもの発達、5領域のねらいと現場での支店			
	5	子どもの基本的生活習慣の獲得			
	6	基本的生活習慣獲得における保育支援			
	7	遊びを展開するための知識			
	8	遊びを展開するための環境設定			
	9	子どもの心に寄り添う			
	10	環境構成の技術と人間関係構築			
	11	責任実習に向けての保育指導案の立案			
	12	責任実習実施の留意点			
	13	保育記録の視点			
	14	保育者としての倫理			
	15	実習上の諸注意のまとめ			
成績評価基準	レポート課題において、60点を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	豊岡短期大学『保育実習指導』 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習		担当者氏名		宮崎 寛子 (幼稚園教諭)
	(4) 単位		学習形態		実習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	180 時間
授業目標	<p>実習園の特色や保育方針を理解し、課題を明確にし実習に臨む ピアノ等の保育技術を磨き実習に臨み実践の場においてさらなる向上をめざす。 幼児の言動から心情を感じ取りながらかかわることができる 記録は保育者の意図を感じ取り学びや気づきを記録に残す 指導案は子どもの姿を予測し配慮事項、留意点をあげる</p>				
授業概要	<p>今までの実習と経験を基に、観察実習・参加実習及び指導案に基づいた実践を行う。 幼稚園の教育理念や教育課程を把握し、個と集団の理解、幼稚園教諭の職務に 対する理解がさらに深まるようにする。また、指導案を作成し実践的な体験を 通して学ぶ。</p>				
授 業 計 画 表	1	2019年6月 20日間			
	2	実習の内容：参加実習の他、指導案を作成し部分実習・責任実習を行い省察する。			
	3				
	4				
	5				
	6				
	7				
	8				
	9				
	10				
	11				
	12				
	13				
	14				
	15				
成績評価基準	<p>実習園による評価（実習態度・幼稚園理解・幼児理解など）及び実習日誌の 評価をして行う。 資格取得に必要な所定日数（時数）を満たした者。</p>				
使用テキスト等	なし				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	教育実習事前事後指導		担当者氏名		宮崎 寛子 (幼稚園教諭)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	こども・福祉保育・こども 未来学科 2年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	教育実習で行う手続き・準備・心構えを確認し、実習中に行う実技等を身に付ける。				
授業概要	教育実習の意義と目的。実習生としての心構えを学ぶ。また幼児の発達についての特性や発達過程を踏まえ、幼児理解や観察の視点・方法、指導案作成等の習得に努めるとともに、目標をもって実習に臨む態度を育成する。				
授 業 計 画 表	1	幼稚園教育の特質			
	2	実習の意義と目的			
	3	保育者としての倫理			
	4	実習生としての心構え			
	5	事前相談・打合せ			
	6	長期指導計画・短期指導計画			
	7	子どもを取り巻く環境			
	8	幼児理解と保育			
	9	保護者理解と支援			
	10	特別な支援を要する子どもへの対応			
	11	手遊び、読み聞かせ			
	12	指導案とは何か			
	13	指導案作成の実際			
	14	幼児理解と学び			
	15	保育者の活動からの学び			
成績評価基準	授業内での関心・意欲・思考力・判断力・提出物を総合的に評価し、 レポート試験60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「教育実習事前・事後指導」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	国語Ⅰ（国語）		担当者氏名		佐藤 忠弘 (元中学校校長)
	(2) 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	幼児及び小学校の国語教育についての基礎的知識を学び、国語をよりよく使用できるように、国語への意識を高めることを目標とする。				
授業概要	幼児児童のことばの発達を助けたり、小学校の国語科の教授を行ったりするための基礎を学ぶ。国語についての知識を学び、国語への認識を深め、日常なことばを客観的・反省的に捉え、国語をよりよく使用できるように、国語への意識を高めることを目的とする。具体的には、国語の音韻・音声・文法・語彙・文字・歴史・方言・国語政策など、国語を構成する各分野についての概説を行うとともに、言語の習得などについても扱う。				
授 業 計 画 表	1	言語の役割			
	2	言語発達と学習			
	3	言語学習の課題			
	4	言語指導の実際			
	5	小学校国語教育の歴史と学習指導要領			
	6	国語科教育の目標			
	7	教材研究の意義			
	8	国語科授業の実際 「話すこと・聞くこと」			
	9	国語科教育の実際 「読むこと」 (低学年)			
	10	国語科教育の実際 「読むこと」 (中学年)			
	11	国語科教育の実際 「読むこと」 (高学年)			
	12	国語科教育の実際 「書くこと」			
	13	伝統的な言語文化と国語の特質			
	14	言語指導の理論と実践			
	15	国語科教育の理解を深める授業づくり			
成績評価基準	レポートの内容、科目試験の成績、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	姫路大学 『国語Ⅰ』				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	社会 (2) 単位		担当者氏名		石井 成夫 (元中学校校長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	社会科教育の指導計画作成の根本原理を習得することを目標とする。				
授業概要	「学習指導要領」(社会)の目標、および、各学年の目標と内容を認識させる学習を進め、指導計画の作成について欠かせない基本的な知識を着実に身につけること、および、具体的な学習の指導計画を事例として、その特色を分析しながら、指導計画作成の根本原理を習得することを本授業の目的とする。				
授 業 計 画 表	1	社会科の教科内容			
	2	地図帳、地図記号の活用、都道府県の特徴			
	3	ICTを活用した教材・資料の収集			
	4	日本の農林水産業			
	5	日本の工業			
	6	暮らしと運輸、貿易			
	7	日本の歴史 人物と文化の背景（古代）			
	8	日本の歴史 人物と文化の背景（中世）			
	9	日本の歴史 人物と文化の背景（近世）			
	10	日本の歴史 近代			
	11	我が国の政治			
	12	地域の暮らしと環境			
	13	国際社会の課題			
	14	現代社会の諸問題			
	15	まとめと振り返り			
成績評価基準	レポートの内容、科目試験の成績、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「社会科教育のルネサンス 実践知を求めて」				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	算数 (2) 単位		担当者氏名		磯部 仁 (元小学校校長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	算数科の学習内容を学ぶとともに、算数科の教育研究の方法を習得することを目標とする。				
授業概要	小学校算数科の主要な単元に関する教材研究を通して、算数科の学習内容を学ぶとともに、算数科の教材研究の方法を習得することを目的とする。そのためにまず、こどもの実態を把握するために授業ビデオを視聴し、次に小グループに分かれ担当する学習内容について指導案を作成・発表し、算数科の学習内容に対する理解を深めることとする。				
授 業 計 画 表	1	オリエンテーション			
	2	少数や分数とは何か			
	3	ことばと演算の関係			
	4	数の世界と量の世界			
	5	測定とは何か			
	6	内包量とは何か パーセント			
	7	内包量とは何か 速度や密度			
	8	関数 比例、反比例			
	9	グラフやデータの活用			
	10	子どもの認知発達と算数数学			
	11	子どもの遊びと算数			
	12	図形の性質とポイント			
	13	図形と面積			
	14	算数・数学教育の歴史			
	15	授業の振り返り			
成績評価基準	授業課題、レポート、科目試験により評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「新訂算数教育の理論と実際」				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	生活 (2) 単位		担当者氏名		木村 民子 (元小学校校長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	幼児期・児童期のよりよい生活の在り方について学習を深め、こどもの成長に対する理解を深めることを目的とする。				
授業概要	幼児期・児童期にふさわしい生活の在り方について一般的な視点から理解する。ついで、幼児期に焦点をあて、生活保育の在り方、進め方について実践的に学ぶ。さらに、児童期に焦点をあて、小学校の生活科を中心に具体的な活動や生活経験を教育的に意味づけることを学ぶ。				
授 業 計 画 表	1	授業概要			
	2	生活科学習の特徴			
	3	生活科の研究基礎			
	4	生活科のカリキュラム			
	5	学習指導要領の変遷			
	6	生活科の背景や意図、ねらい			
	7	生活科の特徴			
	8	生活科の目標			
	9	低学年における内容構成			
	10	具体的な学習の流れと学習の実際			
	11	生活科における教師の役割			
	12	カリキュラム構成 単元や年間指導計画の作成			
	13	生活科における評価			
	14	第3学年以上への円滑な移行			
	15	望ましい生活科教育			
成績評価基準	授業態度、レポート提出、科目試験により評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	姫路大学『生活』 小学校学習指導要領 生活編				

授業概要（シラバス）

科目名	国語科指導法Ⅰ（国語）		担当者氏名		佐藤 忠弘 (元中学校校長)
	(2) 単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	<p>新学習指導要領を踏まえ3領域1項目のねらいに応じた国語授業を実践する上で必要な知識や指導力の育成を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領「国語編」改訂の趣旨を理解し、目標・内容を考察する。 ・各学年の教材の特質を理解し、必要に応じてアクティブラーニングを取り入れながら、学習指導案・板書計画案が作成できる。 				
授業概要	<p>各領域の具体的な教材研究の在り方について事例研究を行う。</p> <p>全体指導計画に基づく学習指導案を作成し、評価基準の設定に取り組むとともに模擬授業を行う。</p>				
授 業 計 画 表	1	学習指導要領改訂の要点			
	2	学習指導案作成の要点			
	3	「話すこと・聞くこと」の授業分析			
	4	「書くこと」の授業分析			
	5	「読むこと」の授業分析			
	6	「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の授業分析			
	7	ICTを活用したアクティブラーニングの授業案作成			
	8	新学習指導要領を踏まえた国語授業のねらい			
	9	学習指導案・板書計画・発問計画の書き方			
	10	各領域における授業研究の在り方			
	11	ICTを活用したアクティブラーニング授業の工夫 1.2.3年			
	12	ICTを活用したアクティブラーニング授業の工夫 4.5.6年			
	13	パワーポイントを使った模擬授業の実施			
	14	模擬授業の振り返り			
	15	適切な授業評価の在り方			
成績評価基準	<p>授業態度 生きる力に直結する教科の指導に情熱と学ぶ姿勢を持っているか。</p> <p>課題 指導案・板書計画。発問計画が教材のねらいにそって作成できているか。</p> <p>単位認定試験 各領域の教材に対する知識・理解力があるか。</p> <p>各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	<p>小学校「新学習指導要領」新旧対照本(時事通信出版局)</p> <p>アクティブラーニングを位置づけた小学校国語科の授業プラン(中村和弘著・明治図書)</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	社会科指導法		担当者氏名		石井 成夫 (元中学校校長)
	(2) 単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	<p>小学校社会科教育の理論と実践について、①社会科授業の構想、②学習指導案の作成、③模擬授業の実施、④授業改善案作成、の4つの視点から学修する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された小学校社会科の目標や内容を理解している。 ・社会科の基礎的方法原理「問題解決」「理解」「説明」「議論」を理解する。 ・具体的な授業場面を想定した授業設計を行うことができる。 				
授業概要	<p>学習指導要領における社会科の目標と内容について解説した後、社会科の基本的な方法原理「問題解決」「理解」「議論」について、具体的な授業実践を事例として考究する。さらに、社会学の学力・評価理論、学習指導の具体的な方法、学習指導案・教材研究・社会科授業研究について学びを深める。以上を通して、模擬授業を実施し、授業設計を行うことのできる実践的な能力を身につける。</p>				
授 業 計 画 表	1	学習指導要領における社会科の目標と内容			
	2	社会科の方法原理(1)：「問題解決」「理解」			
	3	社会科の方法原理(1)：「説明」「議論」			
	4	社会科の学力理論：社会科の基礎基本とは			
	5	社会科の評価理論：到達度評価・観点別評価とは			
	6	社会科の学習指導の方法を探る(1)：ICT、野外観察、地域調査の活用			
	7	社会科の学習指導の方法を探る(2)：アクティブラーニング、教科書の活用			
	8	社会科授業における学習指導案作り			
	9	社会科の教材研究と授業作り			
	10	社会科の授業研究の方法と実践			
	11	模擬授業(1)：中心資料と補助資料			
	12	模擬授業(2)：発問と板書			
	13	模擬授業(3)：社会科の教育技術			
	14	授業改善案の発表(1)：各グループによる授業改善案の検討			
	15	授業改善案の発表(2)：グループ代表者による報告・討議			
成績評価基準	<p>レポート課題における理論的知識の理解、及び指導法の実践的知識の理解により判定し評価する。</p> <p>授業態度 10% 積極的、主体的な姿勢及び意欲により評価する。</p> <p>課題 20% 学習指導案の作成を基準として評価する。</p> <p>その他 20% 授業改善案の発表により評価する。</p> <p>単位認定試験 50% 社会科指導法の基礎理論の習得度を基準とする。</p> <p>各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	社会科教育のルネサンス(原田智仁編著、保育出版社)				

授業概要（シラバス）

科目名	算数科指導法 (2) 単位		担当者氏名		磯部 仁 (元小学校校長)
			学習形態		講義・演習
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	<p>算数科の目標及び内容の理解とその指導法の検討及び実践的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校算数科の学習指導要領に挙げられた目標及び内容を理解している。 ・小学校算数科における授業の構成を理解し、目標及び評価を意識した学習指導案を作成し、模擬授業において具現化することができる。 ・小学校算数科におけるICT機器を含めた教具、学習形態等を理解し、授業構成に活用しようとしている。 				
授業概要	<p>この授業では、小学校算数科の指導ができる教師を育成するために算数的活動や教具の活用法、学習形態などを考え、指導方法を習得することを目的とする。どのような算数的活動の場を設定するのか、知識・理解の獲得をより確かなものにするためにはどのような指導方法を用いるのかを具体的に検討し、模擬授業において実践的に検証するものである。</p>				
授 業 計 画 表	1	算数科指導法の到達目標の確認及び現在の算数科指導法の動向の理解			
	2	問題解決的な学習の理解(概要の把握と教育的効果の考察)			
	3	算数的活動の理解(本時目標と評価基準を踏まえた算数的活動の設定方法の理解)			
	4	算数における学習方法の理解(評価基準の考察及び評価場面、方法の設定)			
	5	「数と計算」「量の測定」領域における指導方法の検討			
	6	「図形」「数量関係」領域における指導方法の検討			
	7	指導法の総括(講義全般を通しての考察及び内容の整理)			
	8	算数的指導法の実践における指導上の留意点の検討			
	9	「数と計算」領域(四則計算)における指導方法の実践的な検討			
	10	「数と計算」領域(数の拡張及び性質)における指導方法の実践的な検討			
	11	「量と測定」領域(外延量)における指導方法の実践的な検討			
	12	「量と測定」領域(内包量)における指導方法の実践的な検討			
	13	「図形」領域における指導方法の実践的な検討			
	14	「数量関係」領域における指導方法の実践的な検討			
	15	指導法の総括(模擬授業を通して顕在化された事項の検討)			
成績評価基準	<p>授業態度 10% 積極的、主体的な姿勢及び意欲により評価する。 課題 20% 学習指導案の作成を基準とする。 その他 20% 模擬授業の事後検討会における考察により評価する。 単位認定試験 50% 算数科指導法の基礎理論の習得度を基準とする。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	小学校学習指導要領解説 算数編(平成29年6月 文部科学省)				

授業概要（シラバス）

科目名	理科指導法 (2) 単位		担当者氏名 松田 紀孝 (元中学校校長)	
			学習形態 講義・演習	
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数 45 時間
授業目標	問題解決学習、協同学習、実験を取り入れた模擬授業を実施することで、自然現象を 探求する科学的姿勢を身に付け、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法を身 に付ける。			
授業概要	「与えられて学ぶ理科」から「教えられるための理科」へ転換する。 「やる気」を起こさせるにはどうすればいいのか、教える側の立場で実践から学ぶ。			
授 業 計 画 表	1	学習指導案の書き方～価値ある内容をどんな育ちのこどもたちにどう教えるか～		
	2	問題解決学習と科学的な見方・考え方		
	3	理科の内容、目標、方法		
	4	ICTの活用(パワーポイント、動画、写真等の活用)		
	5	理科における協同学習の方法(話し合いのルールと発表の仕方)		
	6	理科における指導と評価の一体化		
	7	意外性のある実験が入った授業～深い学びに導くには～		
	8	発問と予想の提示の仕方～問題解決学習		
	9	板書の計画の立て方～情報活用・表現スキル		
	10	模擬授業の実践①「比較実験」～物質領域		
	11	模擬授業の実践②「関係付け実験」～エネルギー領域		
	12	模擬授業の実践③「条件制御実験」～エネルギー領域		
	13	模擬授業の実践④「多面的判断、推論実験」～物質領域：		
	14	模擬授業の実践⑤「多面的判断、推論実験」～地球領域		
	15	模擬授業を振り返って～論作文		
成績評価基準	レポート課題におけるの専門知識の理解、獲得及び思考表現により判定する。 実験レポートの作成により学ぶ姿勢や科学的な思考力、技能を基準に評価する。 模擬授業を実際に行い、パフォーマンスの表現力を基準に評価する。 理科指導法の知識・技能・思考力が身につけていることを基準とする。 各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。 3分の2以上の出席。			
使用テキスト等	理科指導法(平成21年4月 内山裕之編著 姫路大学教育学部通信教育課程)			

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	生活科指導法		担当者氏名		木村 民子 (元小学校校長)
	(2) 単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	45 時間
授業目標	生活科の目標・内容及び学習指導理論について理解し、子どもが豊かで生き生きとした生活を実現していくための実践的・具体的な方法について考える。				
授業概要	生活科の目標や内容、主旨とともに全体的な構造を理解する。指導計画作成の意味や学習指導の進め方について理解するとともに、学習指導案を作成し、模擬授業において具現化することができる。ICT機器の活用を含めた教具、具体物を授業構成に生かすことができる。				
授業 計 画 表	1	生活科指導法の実践における指導上の留意点の検討			
	2	「学校と生活」における指導方法			
	3	「学校と生活」における指導方法の実践的な検討			
	4	「家庭と生活」「地域と生活」における指導方法			
	5	「家庭と生活」「地域と生活」における指導方法の実践的な検討			
	6	「公共物や公共施設の利用」における指導方法の実践的な検討			
	7	「季節の変化と生活」における指導方法の実践的な検討			
	8	「動植物の飼育・栽培」における指導方法の実践的な検討			
	9	「生活や出来事の伝えあい」における指導方法の実践的な検討			
	10	「自分の成長」における指導方法の実践的な検討			
	11	模擬授業によって表面化した課題の検討①			
	12	模擬授業によって表面化した課題の検討②			
	13	模擬授業によって表面化した課題の検討③			
	14	模擬授業によって表面化した課題の検討④			
	15	指導法の総括			
成績評価基準	授業態度、課題、単位認定試験を評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	姫路大学『生活科指導法』（戸江茂博・内山裕之・長瀬善雄著） 小学校学習指導要領解説 生活編				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	家庭科指導法		担当者氏名		木村 民子 (元小学校校長)
	(2) 単位		学習形態		講義・演習
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	45 時間
授業目標	小学校家庭科における学習目標や学習方法を指導する立場から学び、授業実践を通して指導力と評価力及び教師としての資質・能力の向上に努める。				
授業概要	実践的・体験的な学習を通して、生活に必要な基礎的・基本的な知識と技能を習得させることにある。家庭科指導法では、学生の指導力と評価力を高めることを目標として、学習指導案及び評価基準の作成を取り入れ、教育現場で役立ち実践力を高めたい。また、児童が興味関心を持つような学習教材の開発や情報機器の活用など新たな指導方法について取り組む指導者としての資質・能力を身に付ける。				
授 業 計 画 表	1	教育課程における家庭科教育の位置づけ及び学習理論			
	2	小学校学習指導要領家庭改訂の趣旨及び指導内容の確認			
	3	家庭科の目標に準拠した年間カリキュラム作成及び検討			
	4	評価基準と評価活動			
	5	指導項目「A家庭・家族計画」の教材開発と観点別評価基準の検討			
	6	指導項目「B衣食住の生活」の教材開発と観点別評価基準の検討			
	7	指導項目「C消費生活・環境」の教材開発と観点別評価基準の検討			
	8	単元構成・授業計画の検討			
	9	「A家族・家庭生活」領域における指導法の実践的検討			
	10	「B衣食住の生活」の食生活領域における指導法の実践的検討			
	11	「B衣食住の生活」の衣生活・住生活領域における指導法の実践的検討			
	12	「C消費生活・環境」領域における指導法の実践的検討			
	13	学習指導計画案作成及び模擬授業の実施①			
	14	学習指導計画案作成及び模擬授業の実施②			
	15	指導法の総括(模擬授業を通して顕在化された事項の検討)			
成績評価基準	<p>レポートの課題 専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。</p> <p>授業態度 積極的、主体的な姿勢及び意欲により評価する。</p> <p>単位認定試験 家庭科指導法の基礎理論の習得度を基準とする。</p> <p>各項目の評価割合を基に100点満点で評価し、60点以上を合格とする。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	<p>小学校学習指導要領解説 家庭編(平成29年6月 文部科学省)</p> <p>家庭科指導法(大曲 美佐子著、姫路大学教育学部通信教育課程)</p>				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	学校・学級経営論		担当者氏名		荒木 正 (元小学校校長)
	(2) 単位		学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	現代の学校教育に関する経営的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する理解を図る。さらに、学校が抱える今日的な課題について理解を深める。				
授業概要	現代の学校教育に関する経営的事項について基礎的な知識を身に付けるとともに、学校と地域との連携に関する理解および学校安全への対応に関する理解を図る。さらに、学級経営の歴史や実践例を取り上げるとともに、学級が抱える今日的な課題について理解を深め、学級経営に関わる指導力の獲得を目指す。				
授 業 計 画 表	1	学校をめぐるさまざまな変化			
	2	子どもの生活の変化をふまえた指導上の課題			
	3	禁煙の教育政策の動向			
	4	諸外国の教育事情や教育改革の動向			
	5	公教育の目的を実現するための学校経営			
	6	学校評価の基礎理論を含めたP D C Aについて			
	7	教育課程における学級経営の意義			
	8	教職員や学校外の関係者・関係機関との連携・協働			
	9	地域との連携・協働による学校教育活動の意義			
	10	地域との連携を基盤とする開かれた学校づくりの推進の背景			
	11	学校における危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性			
	12	学校をとりまく新たな安全上の課題とその取り組み			
	13	教師の働きかけと主体性を育む学級集団づくり			
	14	発達障害の児童生徒のいる学級の集団づくり			
	15	生徒指導、特別活動などを通じた学級経営の充実			
成績評価基準	レポート課題、科目試験の結果、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	姫路大学『学校・学級経営論』 生徒指導提要（文部科学省・教育図書株式会社）				

平成31年度

授業概要（シラバス）

科目名	道徳教育論 (2) 単位		担当者氏名		磯部 仁 (元小学校校長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	<p>道徳教育の意義や原理を踏まえて、道徳教育及び道徳の時間の目標や内容を理解し、実践的な指導力を身に付ける。</p> <p>(1)道徳教育の基本的な考え方や概念を理解する。 (2)道徳教育の歴史の変遷や法的な根拠を理解する。 (3)道徳教育の内容、道徳の授業の進め方を理解する。 (4)道徳的な価値観を高め、人間としての在り方や生き方を探求する。</p>				
授業概要	<p>「道徳」全般に関わる様々なテーマを扱う。道徳教育の今日的意義と重要性、道徳教育の歴史の変遷、道徳教育の法的な根拠、全教育活動における道徳教育、道徳の時間における道徳教育についての基本的な知識を習得し、今後の道徳教育の実践に役立てる。</p>				
授 業 計 画 表	1	なぜ道徳教育を学ぶのか(教育の専門家としての心得)			
	2	道徳教育とは何か(本質)			
	3	道徳教育とは何か(今日的な意義と重要性)			
	4	社会の変化と道徳教育			
	5	道徳性の発達(心の成長)			
	6	道徳教育の変遷(明治から戦前までの道徳教育)			
	7	道徳教育の変遷(戦後の道徳教育)			
	8	今日の道徳教育(法的な根拠、道徳教育の実態)			
	9	全教育活動における道徳教育 (道徳教育と道徳の時間の違い)			
	10	道徳の時間の学習指導(内容項目と全体計画)			
	11	道徳の時間における道徳教育(目標、特質)			
	12	道徳の時間における道徳教育(指導過程、指導案作成の留意点)			
	13	道徳の時間における道徳教育(授業づくり、授業の展開の仕方)			
	14	道徳の時間における道徳教育(指導の様々な方法)			
	15	道徳教育の課題(これからの道徳教育の在り方を展望)			
成績評価基準	<p>学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> <p>上記を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	<p>自ら学ぶ道徳教育(押谷 由夫編著、保育出版社)</p> <p>修身教授録(森 信三著、致知出版社)</p> <p>思想としての道徳・修養(網澤 満昭著、海風社)</p>				

授業概要（シラバス）

科目名	特別活動指導法 (2) 単位		担当者氏名		磯部 仁 (元小学校校長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3 年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	学校教育全体における特別活動の意義を理解し、「人間関係形成」・「社会参画」・「自己実現」の三つの視点や「チームとしての学校」の視点を持つとともに、学年の違いによる活動の変化、各教科等との往還的な関連、地域住民や他校の教職員と連携した組織的な対応等の特別活動の特質について理解する。				
授業概要	特別活動の意義及び目的を学習指導要領の中で確認し理解する。さらに、特別活動の歴史的発展をみることで今日の特別活動の意味を明確にする。また、特別活動の学級活動・ホームルーム活動、児童会活動・生徒会活動、クラブ活動、学校行事などのそれぞれの特質を概説する。現在の学校の病理と特別活動の関連を考察し、特別活動の実践的指導力を身に付けることの重要性を認識できる学修にする。				
授 業 計 画 表	1	特別活動の歴史的変遷と教育課程上の意義			
	2	教育課程における特別活動の位置付けと教科等との関連			
	3	特別活動の目標と各活動・学校行事の目標との関連			
	4	特別活動における方法原理			
	5	学級活動の内容と指導			
	6	発達段階に応じた話し合い活動の指導について			
	7	特別活動と学級経営との関連			
	8	学校行事の内容と家庭・地域との連携			
	9	児童会活動、クラブ活動の内容と指導			
	10	特別活動における評価の在り方について			
	11	特別活動と教科、総合的な学習の時間との関連			
	12	特別活動と道徳、生徒指導との関連			
	13	特別活動の各活動・学校行事の指導計画の作成について			
	14	学級活動の模擬実践①(学級や学校の生活づくり)			
	15	学級活動の模擬実践②(日常の生活や学習への適応及び健康安全)			
成績評価基準	<p>学習状況の確認：レポートの課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。</p> <p>科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。</p> <p>上記を総合的に評価し60点以上を合格とし、単位を認定する。</p> <p>3分の2以上の出席。</p>				
使用テキスト等	特別活動指導法(上寺常和著、姫路大学教育学部通信教育課程)				

授業概要（シラバス）

科目名	生徒指導・進路指導 (2) 単位		担当者氏名		荒木 正 (元小学校校長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	後期	授業時間数	30 時間
授業目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。				
授業概要	「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生徒指導上の課題」「養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学習を進めていく。				
授業 計 画 表	1	生徒指導の意義と教育課程における生徒指導の位置付け			
	2	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動との関連			
	3	集団指導・個別指導の方法原理と学校における生徒指導体制の基本的な考え方			
	4	学校の指導方針や指導計画に基づいた組織的な取り組みについて			
	5	生徒指導に関する法制度			
	6	生徒指導の機能を保障した日々の生徒指導の進め方			
	7	基本的な生活習慣、校内規律などの指導について			
	8	生徒指導上の課題に対する早期発見と効果的な指導について			
	9	インターネットや性に関する課題や児童虐待などの今日的課題の対応について			
	10	進路指導・キャリア教育の意義と教育課程上の位置付け			
	11	就労観・職業観の形成を促す進路指導のあり方			
	12	進路指導・キャリア教育実践の学校体制とカリキュラム・マネジメント			
	13	進路指導における「ガイダンスの機能の充実」			
	14	自己理解と進路指導・キャリア教育			
	15	キャリア・カウンセリングの理論と方法			
成績評価基準	学習状況の確認：レポート課題において専門的知識の理解度および思考表現により判定し評価する。 科目の成績評価：科目試験の結果により判定し評価する。 上記を総合的に評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	生徒指導・進路指導(長瀬善雄著、姫路大学教育学部通信教育課程)				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	生徒指導の理論と方法 (2) 単位		担当者氏名		荒木 正 (元小学校校長)
			学習形態		講義
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	生徒指導は、一人一人の児童及び生徒の人格を尊重し個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。				
授業概要	「生徒指導の意義と原理」「すべての児童及び生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方」「児童生徒の抱える生活指導上の課題」「養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方」などを中心に学習を進める。				
授 業 計 画 表	1	教育課程における生徒指導の位置づけ			
	2	各教科・道徳教育・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義			
	3	集団指導・個別指導の方法原理			
	4	生徒指導体制の基本的な考え方			
	5	教育相談体制の基礎的な考え方			
	6	学校の指導方針や指導計画に基づいた組織的な取り組み			
	7	基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成等の日々の生徒指導の在り方			
	8	生徒指導の機能を保障した日々の生徒指導の進め方			
	9	生徒指導に関する法制度			
	10	暴力行為・いじめ・不登校との市絵と指導上の課題に対する指導			
	11	インターネットや性に関する課題や児童虐待などの今日的課題の対応			
	12	学校と家庭・地域・関係機関との連携			
	13	生徒指導における児童生徒理解の重要性			
	14	発達に関する課題と対応			
	15	生徒指導の評価と改善			
成績評価基準	レポートの課題、試験の結果により判定し60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	姫路大学『生徒指導・進路指導』（長瀬善雄著） 『生徒指導提要』（文部科学省 教育図書株式会社）				

2019年度

授業概要（シラバス）

科目名	保育演習Ⅴ		担当者氏名		渡邊 壽子 (看護師)
	(1) 単位		学習形態		演習
学科 開講学年	福祉保育・こども未来学科 3年	開講期	前期	授業時間数	30 時間
授業目標	こどもが日常的にかかりやすい病気について、具体的な対処法や予防について学ぶ。また、保育中に体調不良になった場合に適切な対応ができるように理解を深めるとともに、病児後保育の対応や緊急時の対応ができるように演習を通して学ぶ。				
授業概要	保育の現場において、病気の早期発見ができる観察力を高める力を養い、遭遇する病気の対応や事故や緊急時における対処方法を学び対応できる力を養う。				
授 業 計 画 表	1	身体計測の演習と評価			
	2	観察項目「バイタルサイン」の測定の仕方と評価			
	3	日常の保育に必要な養護技術			
	4	だっこ・おんぶ・食事（調乳）・口腔内の清潔			
	5	排泄の援助とトレーニング（おむつの当て方等）			
	6	身体の清潔保持（沐浴実習）衣服の着脱			
	7	一般的な症状に対する看護			
	8	発熱・泣き方・咳・頭痛・腹痛・嘔吐・便秘・下痢 等			
	9	病気の対応と予防：感染症（ウイルス・細菌性）（食中毒）			
	10	手洗いの必要性和手洗いの実習			
	11	応急処置・救急法 包帯・三角巾を使って演習			
	12	具体的な症状の応急処置			
	13	人形をつかって一次蘇生法の演習 救急車の呼び方 等			
	14	保育施設での安全管理対策と地域との連携と協働			
	15	まとめ（振り返り）			
成績評価基準	学びの態度や姿勢、単位認定試験を評価し、60点以上を合格とし単位を認定する。 3分の2以上の出席。				
使用テキスト等	「こどもの保健」（豊岡短期大学） 「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、「保育所保育指針」（フレーベル館） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」（フレーベル館）				